

令和2年度
統一的な基準による
財務書類分析報告書

館林地区消防組合

令和4年1月

【 目 次 】

I. はじめに	1
1. 統一的な基準による財務書類作成の背景	
2. 財務書類の概要	
3. 主な用語解説	
II. 財務書類の作成基準	6
1. 作成要領	
2. 財務書類の対象となる会計等	
3. 会計期間	
4. 注意点	
III. 館林地区消防組合の財務書類（一般会計等財務書類）	7
1. 一般会計等貸借対照表	
2. 一般会計等行政コスト計算書	
3. 一般会計等純資産変動計算書	
4. 一般会計等資金収支計算書	
5. 一般会計等財務書類4表構成の相互関係	
IV. 館林地区消防組合の財務書類（連結財務書類）	12
1. 連結貸借対照表	
2. 連結行政コスト計算書	
3. 連結純資産変動計算書	
4. 連結資金収支計算書	
5. 連結財務書類4表構成の相互関係	
V. 将来の資産更新必要額の推計	17

I. はじめに

1. 統一的な基準による財務書類作成の背景

従来、地方公共団体は、現金主義・単式簿記による歳入歳出の収支計算により決算書を作成しています。

しかし平成18年5月に総務省は「新地方公会計制度研究会報告書」を公表し、発生主義・複式簿記による企業会計的な手法を活用した財務書類の作成基準を明らかにし、平成19年10月には「新地方公会計制度実務研究会報告書」を公表し、具体的な財務書類の作成モデルを示し、従来の歳入歳出の決算書に加えて、各地方公共団体に財務書類の作成及び公表を要請しました。

全国の各地方公共団体でも従来の歳入歳出の決算書に加えて、財務書類の作成は着実に進みましたが、作成方式が複数あり比較可能性の確保が計れない他、多くの地方公共団体で「総務省方式改訂モデル」が採用された為、本格的な複式簿記の導入や公共施設マネジメントにも資する固定資産台帳の整備が進みませんでした。

これらの課題を解決する為に、平成26年4月に「今後の新地方公会計の推進に関する研究会報告書」が公表され、固定資産台帳の整備と複式簿記を前提とした財務書類等の統一的な基準が示されました。その後、平成27年1月の総務大臣通知で、原則として平成27年度から平成29年度までの3年間で全ての地方公共団体で作成・公表が要請されました。

本組合でもこの要請に基づき、平成29年度に固定資産台帳の整備及び平成28年度分の財務書類より統一的な基準に基づく財務書類を作成しました。

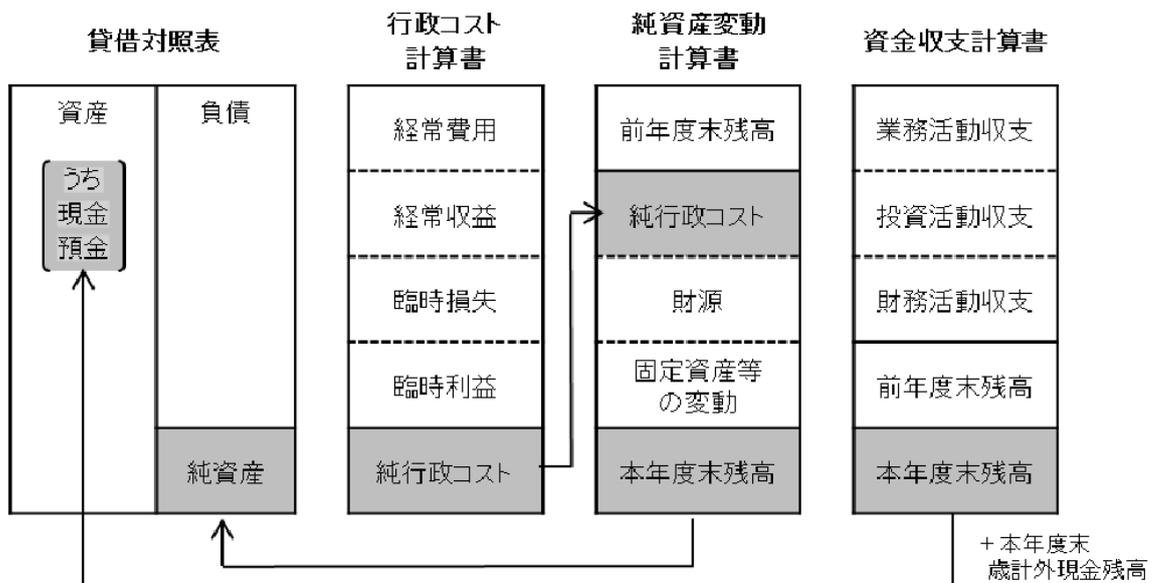
2. 財務書類の概要

公表する財務書類は、「貸借対照表」、「行政コスト計算書」、「純資産変動計算書」、「資金収支計算書」の4表です。各財務書類の一般的な概要は以下の通りです。

財務書類名	概 要
貸借対照表	貸借対照表は、基準日時点における地方公共団体の財政状態（資産・負債・純資産の残高及び明細）を明らかにすることを目的として作成します。
行政コスト計算書	行政コスト計算書は、会計期間中の地方公共団体の費用・収益の取引高を明らかにすることを目的として作成します。費用の中には、現金支出を伴わない減価償却費等も計上してあります。また、この計算書で計算した純行政コストは、1年間の行政サービスに掛かる経費を示し、純資産変動計算書の純行政コストとして計上されます。
純資産変動計算書	純資産変動計算書は、会計期間中の地方公共団体の純資産の変動を明らかにすることを目的として作成します。この計算書で計算した本年度末純資産残高は、貸借対照表の純資産の部の金額と一致します。

資金収支計算書	資金収支計算書は、地方公共団体の資金収支の状態、すなわち地方公共団体の内部者（首長，議会，補助機関等）の活動に伴う資金利用状況及び資金獲得能力を明らかにすることを目的として作成します。この計算書での収入及び支出は、貸借対照表の現金預金の増加と減少であり、その残高は貸借対照表の現金預金の金額と一致します。
---------	--

上記の各財務書類の主な表示科目と相互の関係は以下の通りとなります。



- ※1 貸借対照表の資産のうち「現金預金」の金額は、資金収支計算書の本年度末残高に本年度末歳計外現金残高を足したものと対応します。
- ※2 貸借対照表の「純資産」の金額は、純資産変動計算書の本年度末残高と対応します。
- ※3 行政コスト計算書の「純行政コスト」の金額は、純資産変動計算書に記載されます。

3. 主な用語解説

(1) 貸借対照表

固定資産		
有形固定資産		
	事業用資産	公共サービスに供されている資産でインフラ資産以外の資産（例：庁舎、学校、公民館、公営住宅、福祉施設など）
	インフラ資産	社会基盤となる資産（例：道路、橋、公園、上下水道施設など）
	物品	業務に使用する備品、機械器具や自動車など
無形固定資産		
	その他	商標権、知的財産権など
投資その他の資産		
	投資及び出資金	有価証券、出資金、出えん金など
	投資損失引当金	連結対象団体への出資金や保有株式の実質価格が著しく低下した場合に見込まれる低下額
	長期延滞債権	貸付金・地方税・使用料等の収入未済額のうち、前年度以前のもの合計額
	長期貸付金	奨学金等で返済が翌々年度以降に予定されているもの
	基金	翌々年度以降に取り崩しが予定されている特定目的基金
	徴収不能引当金	長期延滞債権や長期貸付金で将来の回収不能見込額（不能欠損額）を見積もった額
流動資産		
	現金預金	手許現金や預貯金など
	未収金	地方税や使用料等で今年度に発生した収入未済額
	短期貸付金	奨学金等で返済が翌年度に予定されているもの
基金		
	財政調整基金	年度間の財源不足に備えるため、決算剰余金などを積み立て、財源が不足する年度に活用する目的の基金
	減債基金	翌年度の地方債の償還に充当する目的の基金
	棚卸資産	売却目的で保有している資産
	徴収不能引当金	未収金や短期貸付金で将来の回収不能見込額（不能欠損額）を見積もった額
固定負債		
支払期限の到来が1年超の負債及び将来発生する可能性がある支出の見積額		
	地方債	有形固定資産の形成等の財源のために国や銀行などから借り入れた地方債のうち、償還期限の到来が1年を超えるもの
	長期未払金	債務負担行為で、既に確定債務とみなされるもので、1年以内の支払予定額を除いたもの
	退職手当引当金	年度末に全職員が自己都合で退職したと仮定して算出した退職金の総額から退職手当組合積立金を差し引いた額
	損失補償等引当金	履行すべき額が確定していないが、将来発生する可能性のある損失保証債務の見込額
	その他	1年超のリース負債や公営住宅の敷金等の上記以外の固定負債
流動負債		
1年以内に返済や支払いを要するものや既に支払義務が確定しているもの		
	1年以内償還予定地方債	国や銀行などから借り入れた地方債のうち、1年以内に償還予定のもの
	未払金	債務負担行為で、既に確定債務とみなされるもので、1年以内の支払予定のもの
	未払費用	一定の契約に従い、継続して役務の提供を受けている場合、基準日時点において既に提供された役務に対して未だその

		対価の支払いを終えてないもの
前受金		基準日時点において、代金の納入は受けているが、これに対する義務の履行を行っていないもの
前受収益		一定の契約に従い、継続して役務の提供を行う場合、基準日時点において未だ提供していない役務に対して支払いを受けたもの
賞与等引当金		職員に対する翌年度支給の賞与のうち、本年度の勤務に起因して発生する分の見込額
預り金		基準日時点における第三者からの預り分
その他		翌年度支払い予定のリース負債等上記以外の1年以内に返済や支払いを予定している負債
純資産の部		
	固定資産等形成分	資産形成のために充当した資源の蓄積をいい、原則として金銭以外の形態（固定資産等）で保有されるもの
	余剰分（不足分）	地方公共団体で費消可能な資源の蓄積（不足分）をいい、原則として金銭の形態で保有されるもの。不足の場合は、不足分として計上される。

(2) 行政コスト計算書

経常費用		毎会計年度に経常的に発生する費用
業務費用		
人件費		
	職員給与費	職員等に対し勤労の対価として支払われる費用
	退職給与引当金繰入額	退職手当引当金の当年度発生額。具体的には、年度末に全職員が自己都合で退職したと仮定して算出した退職金の総額から退職手当組合積立金を差し引いた額を計上します。
	賞与等引当金繰入額	職員に対する翌年度支給の賞与のうち、本年度の勤務に起因して発生する分の見込額
	その他	報酬等として支払われる費用
物件費等		
	物件費	職員旅費、委託料、消耗品や備品購入費、施設等の維持修繕にかかる経費や有形固定資産及び無形固定資産の減価償却費など
	維持補修費	工事請負費のうち、施設等の維持補修にあたるもの。
	減価償却費	償却資産の経年劣化に伴い発生する費用。具体的には当該償却資産の取得価額等を法定耐用年数で除した金額
	その他	上記以外の物件費等
その他の業務費用		
	支払利息	地方債及び一時借入金等地方公共団体の借入金に対する利息
	徴収不能引当金繰入額	貸付金や未収金等で将来の回収不能見込額（不能欠損額）を見積もった額で当年度発生分
	その他	保険料、国庫支出金の返還金や過年度分過誤納還付等の上記以外の費用
移転費用		
	補助金等	各種団体に対する政策目的の補助金等
	社会保障給付	児童手当や高齢者・障害者等に対する援護措置などの扶助費
	他会計への繰出金	特別会計へ支出された費用
	その他	補償金や寄付等の上記以外の移転支的費用
経常収益		毎会計年度に経常的に発生する収益
	使用料及び手数料	施設利用料や住民票などを発行する際の手数料

	その他	過料、預金利子、売上収益など
純経常行政コスト		会計年度の経常的に発生した純費用。具体的には、経常費用から経常収益を差し引いた額
臨時損失		災害復旧事業費、資産除売却損、第三セクターの特別損失など臨時に発生するもの
	災害復旧事業費	災害復旧に関する費用
	資産所売却損	資産の売却による収入が、資産の帳簿価額を下回る場合の差額及び除却した資産の除却時の帳簿価額。尚、帳簿価額とは、資産の取得価額等から減価償却累計額を差し引いた金額
	投資損失引当金繰入額	本年度発生した連結対象団体への出資金や保有株式の実質価格が著しく低下した場合に見込まれる低下額
	損失補償引当金繰入額	履行すべき額が確定していないが、将来発生する可能性のある損失保証債務の見込額の本年度発生分
	その他	上記以外に臨時に発生した費用
臨時利益		資産売却益、第三セクターの特別利益など臨時に発生するもの
	資産売却益	資産の売却による収入が帳簿価額を上回る場合の差額。
	その他	上記以外の臨時に発生した収入の利益部分
純行政コスト		会計年度の全ての費用から収益を差し引いた純費用。具体的には、純経常行政コストに臨時損失を足して臨時利益を加えた額

(3) 純資産変動計算書

前年度末純資産残高		前年度末の純資産の額
	純行政コスト	行政活動に係る費用のうち、人的サービスや給付サービスなど、資産形成につながらない行政サービスに係る費用（行政コスト計算書の「純行政コスト」と一致）
財源		
	税収等	分担金、負担金など
	国県等補助金	国庫支出金及び都道府県支出金など
固定資産等の変動(内部変動)		
	有形固定資産等の増加	有形固定資産・無形固定資産の形成による保有資産の増加額または有形固定資産・無形固定資産の形成の為の支出した額
	有形固定資産等の減少	有形固定資産・無形固定資産の減価償却費相当額及び除売却による減少分または有形固定資産及び無形固定資産の売却時の元本分と除売却相当額及び減価償却相当額。
	貸付金・基金等の増加	貸付金・基金等の形成による保有資産の増加額または新たな貸付金・基金等のために支出した金額
	貸付金・基金等の減少	貸付金の償還及び基金の取崩等による減少額または貸付金の償還収入及び基金の取崩収入相当額
	資産評価差額	有価証券等の評価差額
	無償所管替	無償で譲渡または取得した固定資産の評価額など
	その他	上記以外の純資産及びその内部構成の変動
本年度末純資産残高		本年度末の純資産の額(貸借対照表「純資産」と一致)

(4) 資金収支計算書

業務活動収支	経常活動に伴い、継続的に発生する資金収支。人権費、物件費、災害復旧事業費など支出と税収等の収入
投資活動収支	公共施設等の資本形成活動に伴い発生する資金収支と基金や金融資産の増減に伴い発生する収支。公共施設等整備費支出やそれにともなう補助金収入、基金の積立や取り崩しなど
財務活動収支	負債の管理に係る資金収支。地方債発行額や元金部分の償還額など

II. 財務書類の作成基準

1. 作成要領

平成 26 年 4 月 30 日公表の「今後の新地方公会計に関する研究会報告書」及び平成 27 年 1 月 23 日公表の「統一的な基準による地方公会計マニュアル」の他、同日以降に公表された報告書等に基づき作成しました。

2. 財務書類の対象となる会計等

館林地区消防組合	一般会計	一般会計	連結会計
群馬県市町村総合事務組合	退職手当		
	消防補償等支給事務		

3. 会計期間

各財務書類は、令和 2 年 4 月 1 日から令和 3 年 3 月 31 日までを会計期間としています。従って、貸借対照表は、令和 3 年 3 月 31 日が基準日です。

但し、出納整理期間（令和 3 年 4 月 1 日から令和 3 年 5 月 31 日まで）における現金等の受け払いは令和 3 年 3 月 31 日までに終了したものとして処理しています。

4. 注意点

- (1) 各財務書類は、千円未満を四捨五入して表示しているため、合計金額が一致しない場合があります。
- (2) 財務書類 4 表構成の相互関係は、百万円未満を四捨五入して表示しているため、合計金額が一致しない場合があります。
- (3) 各科目の四捨五入の単位未満の表示は次のとおりです。
「0」・・・四捨五入の結果、単位未満のもの 「-」・・・金額が存在しないもの
- (4) 貸借対照表の流動・固定の区分は、1 年を超えて入金及び支払いがあるものを固定資産・固定負債にし、1 年以内のものを流動資産・流動負債とします。また、固定資産、固定負債から配列します。
- (5) 行政コスト計算書には、発生主義会計を採り入れ減価償却費，退職手当引当金等の現金支出を伴わない費用も計上しています。

Ⅲ. 館林地区消防組合の財務書類（一般会計等財務書類）

1. 一般会計等貸借対照表

一般会計等 貸借対照表

(令和3年3月31日現在)

(単位:千円)

科目名	金額	科目名	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	4,787,880	固定負債	3,073,578
有形固定資産	4,761,829	地方債	2,811,775
事業用資産	4,167,745	長期未払金	-
土地	-	退職手当引当金	261,803
立木竹	-	損失補償等引当金	-
建物	4,462,095	その他	-
建物減価償却累計額	-1,226,580	流動負債	126,073
工作物	3,275,618	1年内償還予定地方債	34,622
工作物減価償却累計額	-2,421,598	未払金	-
船舶	67,451	未払費用	-
船舶減価償却累計額	-2,221	前受金	-
浮標等	-	前受収益	-
浮標等減価償却累計額	-	賞与等引当金	91,451
航空機	-	預り金	-
航空機減価償却累計額	-	その他	-
その他	-	負債合計	3,199,651
その他減価償却累計額	-	【純資産の部】	
建設仮勘定	12,980	固定資産等形成分	4,978,466
インフラ資産	-	余剰分(不足分)	-3,033,035
土地	-		
建物	-		
建物減価償却累計額	-		
工作物	-		
工作物減価償却累計額	-		
その他	-		
その他減価償却累計額	-		
建設仮勘定	-		
物品	3,627,439		
物品減価償却累計額	-3,033,354		
無形固定資産	-		
ソフトウェア	-		
その他	-		
投資その他の資産	-		
投資及び出資金	-		
有価証券	-		
出資金	-		
その他	-		
投資損失引当金	-		
長期延滞債権	-		
長期貸付金	-		
基金	-		
減債基金	-		
その他	26,051		
その他	-		
徴収不能引当金	-		
流動資産	357,203		
現金預金	166,617		
未収金	-		
短期貸付金	-		
基金	-		
財政調整基金	190,586		
減債基金	-		
棚卸資産	-		
その他	-		
徴収不能引当金	-		
資産合計	5,145,083	純資産合計	1,945,432
		負債及び純資産合計	5,145,083

【 概 要 】

- ◇ 資産の総額は、51億4,508万3千円であり、歳入の2.1年分、職員1人当たり2,693万8千円に該当します。資産総額の37.8%に該当する純資産合計19億4,543万2千円は、過去の世代が蓄積してきたものであり、十分な蓄積です。一方、負債合計で示された31億9,965万1千円については将来世代が負担していくこととなります。
- ◇ 但し、これまで蓄積してきた純資産は19億4,543万2千円あるものの、固定資産、貸付金、基金で49億7,846万6千円保有しており、現時点での負債合計31億9,965万1千円を、手許の現預金等の基金や貸付金以外の流動資産で一括で返済すると仮定すると30億3,303万5千円資金が不足している状況です。
- ◇ 資産総額51億4,508万3千円のうち施設、道路、公園等の公共資産は47億6,182万9千円で資産の92.6%を占めています。この有形固定資産の内、土地を除く償却可能資産の老朽度を示す有形固定資産減価償却率は58.5%であり新規資産取得により改善されました。
- ◇ 地方債残高28億4,639万7千円は、公共資産47億6,182万9千円の59.8%を占め、現時点での公共資産のうち59.8%を将来世代が負担することとなります。地方債も含めた負債合計31億9,965万1千円を職員1人当たり直すと1,675万2千円となり前年より減少し、また資産の裏付けがある負債です。

2. 一般会計等行政コスト計算書

一般会計等 行政コスト計算書

自 令和2年4月1日
至 令和3年3月31日

(単位:千円)

科目名	金額
経常費用	2,284,947
業務費用	2,154,347
人件費	1,485,578
職員給与費	1,338,767
賞与等引当金繰入額	91,451
退職手当引当金繰入額	-
その他	55,359
物件費等	655,227
物件費	231,808
維持補修費	24,836
減価償却費	395,076
その他	3,507
その他の業務費用	13,543
支払利息	13,543
徴収不能引当金繰入額	-
その他	-
移転費用	130,600
補助金等	104,589
社会保障給付	23,360
他会計への繰出金	-
その他	2,650
経常収益	13,128
使用料及び手数料	5,501
その他	7,627
純経常行政コスト	2,271,819
臨時損失	43,132
災害復旧事業費	-
資産除売却損	43,132
投資損失引当金繰入額	-
損失補償等引当金繰入額	-
その他	-
臨時利益	-
資産売却益	-
その他	-
純行政コスト	2,314,950

【 概 要 】

- ◇ 経常費用は22億8,494万7千円であり、使用料・手数料などの収入1,312万8千円を差し引いた純経常行政コストは22億7,181万9千円となります。職員1人当たりに換算すると1,212万円です。更に臨時損益を控除した純行政コストは23億1,495万円です。
- ◇ 純経常行政コストを税収や補助金で賄う必要がありますが、税収等や補助金などの財源は21億4,644万3千円でした。財源がコストを上回りました。純経常行政コストと財源の割合は103.9%と100%を上回っています。
- ◇ 人に掛かるコストである人件費には、職員給与、議員報酬、福利厚生費などの他、将来発生する職員の退職金の支払に備えて、毎年必要な額を費用計上する引当金も含んでおり、本年度は14億8,557万8千円でした。
- ◇ 物件費のうち、減価償却費は設備を利用する際の経年劣化に伴う費用であり、維持補修費は、施設や設備が、目的とする機能を果たすための修繕に要した費用です。この施設の維持・利用に掛かるコストは本年度は4億1,991万2千円でした。
- ◇ 移転費用とは、直接サービスを行う費用ではなく、行政機関を通じて支出した費用であり、本年度は1億3,060万円でした。
- ◇ 臨時損益とは費用のうち臨時に発生したもの及び収益のうち臨時に発生したものをいい、資産除売却損益などが該当します。

3. 一般会計等純資産変動計算書

一般会計等 純資産変動計算書

自 令和2年4月1日
至 令和3年3月31日

(単位:千円)

科目名	合計	固定資産等形成分	余剰分(不足分)
前年度末純資産残高	1,778,706	5,020,202	-3,241,497
純行政コスト(△)	-2,314,950		-2,314,950
財源	2,185,575		2,185,575
税収等	2,146,443		2,146,443
国県等補助金	39,132		39,132
本年度差額	-129,375		-129,375
固定資産等の変動(内部変動)		-337,837	337,837
有形固定資産等の増加		71,101	-71,101
有形固定資産等の減少		-438,208	438,208
貸付金・基金等の増加		60,003	-60,003
貸付金・基金等の減少		-30,733	30,733
資産評価差額	-	-	-
無償所管換等	296,101	296,101	-
その他	-	-	-
本年度純資産変動額	166,726	-41,736	208,462
本年度末純資産残高	1,945,432	4,978,466	-3,033,035

【 概 要 】

- ◇ 行政コスト計算書で計算した純行政コストが純資産変動計算書に転記され、税収や補助金などの合計額である財源でどの程度賄われているかを計算します。
- ◇ 純資産の増加である財源は、自主財源である地方税等の税収等が21億4,644万3千円あり、国や県からの補助金である依存財源は3,913万2千円です。
- ◇ 23億1,495万円の純行政コストに対し、財源は21億8,557万5千円であり、コストが財源を上回り、1億2,937万5千円純資産が減少しています。純経常行政コストと財源の割合を示す行政コスト対税収比率も103.9%と100%を上回っており余剰分が取り崩されたこととなります。
- ◇ 主に本年度の資産評価差額や無償所管替等は2億9,610万1千円でした。この金額が前年度末純資産残高に加えられ、純資産残高は19億4,543万2千円となり、貸借対照表に転記されます。
- ◇ 本年度の純資産の増加は1億6,672万6千円ですが、固定資産、貸付金、基金は全体で4,173万6千円の減少です。一方、財源から行政コストを差し引いた余剰分については2億846万2千円の増加でした。
- ◇ 本年度末時点の純資産残高は、19億4,543万2千円ありますが、現時点までで固定資産、貸付金、基金の形で資産を49億7,846万6千円保有しており、現時点の負債総額を手許の現預金等で一括で返済するとした場合、30億3,303万5千円不足します。

4. 一般会計等資金収支計算書

一般会計等 資金収支計算書

自 令和2年4月1日
至 令和3年3月31日

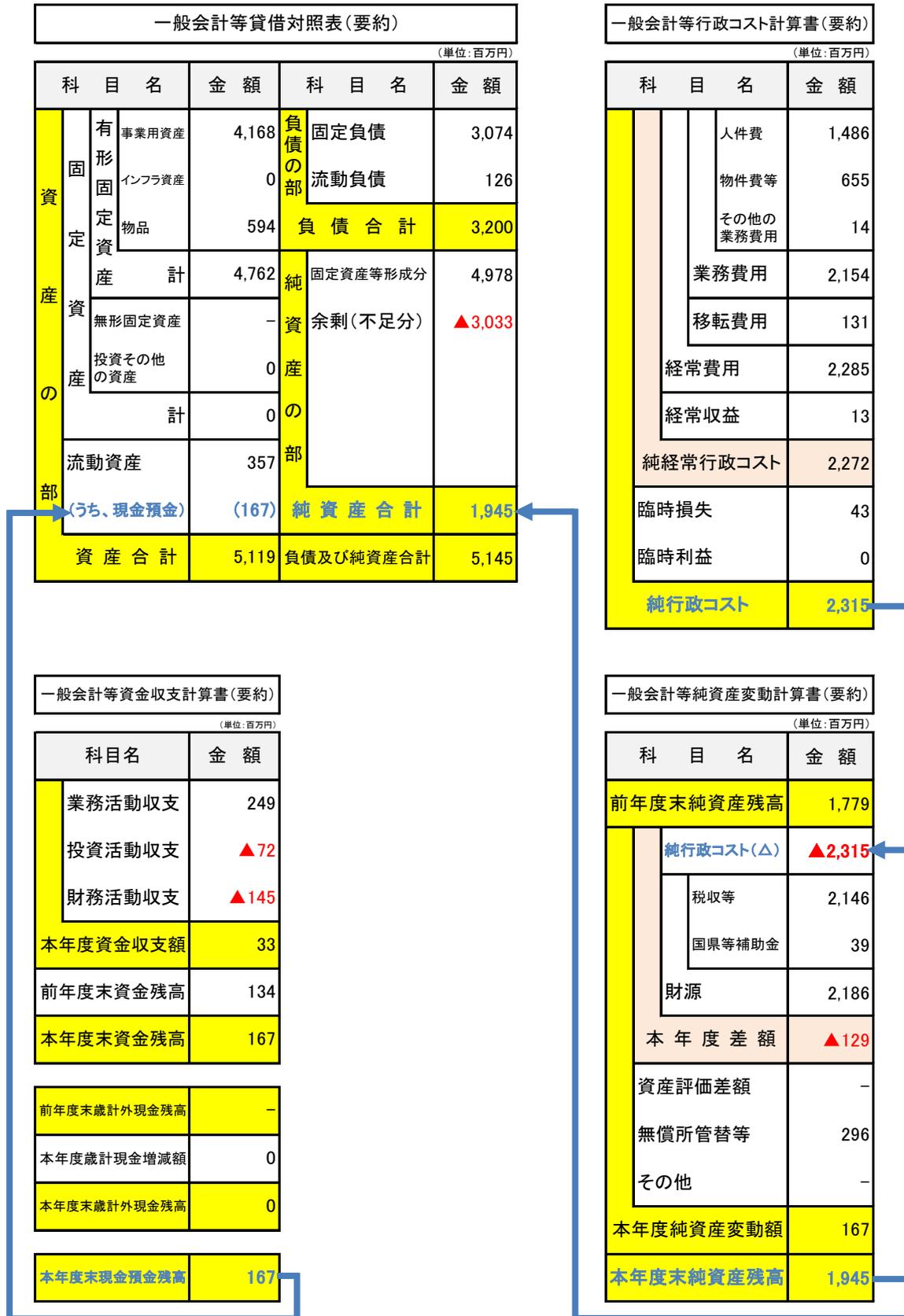
(単位:千円)

科目名	金額
【業務活動収支】	
業務支出	1,920,821
業務費用支出	1,790,221
人件費支出	1,516,527
物件費等支出	260,151
支払利息支出	13,543
その他の支出	-
移転費用支出	130,600
補助金等支出	104,589
社会保障給付支出	23,360
他会計への繰出支出	-
その他の支出	2,650
業務収入	2,170,162
税込等収入	2,146,443
国県等補助金収入	10,590
使用料及び手数料収入	5,501
その他の収入	7,627
臨時支出	-
災害復旧事業費支出	-
その他の支出	-
臨時収入	-
業務活動収支	249,341
【投資活動収支】	
投資活動支出	131,104
公共施設等整備費支出	71,101
基金積立金支出	60,003
投資及び出資金支出	-
貸付金支出	-
その他の支出	-
投資活動収入	59,275
国県等補助金収入	28,542
基金取崩収入	30,733
貸付金元金回収収入	-
資産売却収入	-
その他の収入	-
投資活動収支	-71,829
【財務活動収支】	
財務活動支出	234,613
地方債償還支出	234,613
その他の支出	-
財務活動収入	89,700
地方債発行収入	89,700
その他の収入	-
財務活動収支	-144,913
本年度資金収支額	32,600
前年度末資金残高	134,017
本年度末資金残高	166,617
前年度末歳計外現金残高	-
本年度歳計外現金増減額	-
本年度末歳計外現金残高	-
本年度末現金預金残高	166,617

【 概 要 】

- ◇ 本年度資金残高は1億6,661万7千円となり前年より3,260万円の増加となりました。活動別の収支の内訳は以下の通りです。
- ◇ 業務活動収支は、経常的な行政活動による資金収支で、本年度は2億4,934万1千円の資金が増加しています。
- ◇ 業務活動収支のうち、臨時に生じた収入・支出を除いた業務活動の収支2億4,934万1千円で、貸借対照表の地方債総額28億4,639万7千円を返済すると仮定した場合、11.4年で返済が可能です。
- ◇ 投資活動収支は、公共資産整備に伴う収支と金融資産の増減に伴う収支を示し、本年度は7,182万9千円の資金が減少しています。
- ◇ 財務活動収支は地方債等の発行と償還、支払いに伴う収支を示し、本年度は1億4,491万3千円の資金が減少しています。
- ◇ なお、持続可能な財政運営が可能か否かのバランスを示す指標である基礎的財政収支（プライマリーバランス）を計算すると2億2,032万5千円の資金の黒字です。

5. 一般会計等財務書類4表構成の相互関係



一般会計等貸借対照表(要約)						
(単位:百万円)						
科目名		金額	科目名		金額	
資産の部	有形固定資産	事業用資産	4,168	負債の部	固定負債	3,074
		インフラ資産	0		流動負債	126
		物品	594	負債合計	3,200	
	資産計	4,762	純資産の部	固定資産等形成分	4,978	
	無形固定資産	-		余剰(不足分)	▲3,033	
	投資その他の資産	0				
	資産計	0				
	流動資産	357				
	(うち、現金預金)	(167)	純資産合計	1,945		
	資産合計	5,119	負債及び純資産合計	5,145		

一般会計等行政コスト計算書(要約)	
(単位:百万円)	
科目名	金額
人件費	1,486
物件費等	655
その他の業務費用	14
業務費用	2,154
移転費用	131
経常費用	2,285
経常収益	13
純経常行政コスト	2,272
臨時損失	43
臨時利益	0
純行政コスト	2,315

一般会計等資金収支計算書(要約)	
(単位:百万円)	
科目名	金額
業務活動収支	249
投資活動収支	▲72
財務活動収支	▲145
本年度資金収支額	33
前年度末資金残高	134
本年度末資金残高	167
前年度末歳計外現金残高	-
本年度歳計現金増減額	0
本年度末歳計外現金残高	0
本年度末現金預金残高	167

一般会計等純資産変動計算書(要約)	
(単位:百万円)	
科目名	金額
前年度末純資産残高	1,779
純行政コスト(△)	▲2,315
税収等	2,146
国県等補助金	39
財源	2,186
本年度差額	▲129
資産評価差額	-
無償所管替等	296
その他	-
本年度純資産変動額	167
本年度末純資産残高	1,945

V. 館林地区消防組合の財務書類（連結財務書類）

1. 連結貸借対照表

連結 貸借対照表

(令和3年3月31日現在)

(単位:千円)

科目名	金額	科目名	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	5,595,366	固定負債	3,875,511
有形固定資産	4,761,829	地方債等	2,811,775
事業用資産	4,167,745	長期未払金	-
土地	-	退職手当引当金	1,063,736
立木竹	-	損失補償等引当金	-
建物	4,462,095	その他	-
建物減価償却累計額	-1,226,580	流動負債	126,091
工作物	3,275,618	1年内償還予定地方債等	34,622
工作物減価償却累計額	-2,421,598	未払金	-
船舶	67,451	未払費用	-
船舶減価償却累計額	-2,221	前受金	-
浮標等	-	前受収益	-
浮標等減価償却累計額	-	賞与等引当金	91,469
航空機	-	預り金	-
航空機減価償却累計額	-	その他	-
その他	-	負債合計	4,001,602
その他減価償却累計額	-	【純資産の部】	
建設仮勘定	12,980	固定資産等形成分	5,785,952
インフラ資産	-	余剰分(不足分)	-3,833,536
土地	-	他団体出資等分	-
建物	-		
建物減価償却累計額	-		
工作物	-		
工作物減価償却累計額	-		
その他	-		
その他減価償却累計額	-		
建設仮勘定	-		
物品	3,627,439		
物品減価償却累計額	-3,033,354		
無形固定資産	-		
ソフトウェア	-		
その他	-		
投資その他の資産	-		
投資及び出資金	-		
有価証券	-		
出資金	-		
その他	-		
長期延滞債権	-		
長期貸付金	-		
基金	-		
減債基金	-		
その他	833,537		
その他	-		
徴収不能引当金	-		
流動資産	358,653		
現金預金	168,067		
未収金	-		
短期貸付金	-		
基金	-		
財政調整基金	190,586		
減債基金	-		
棚卸資産	-		
その他	-		
徴収不能引当金	-		
繰延資産	-		
資産合計	5,954,019	純資産合計	1,952,416
		負債及び純資産合計	5,954,019

【 概 要 】

- ◇ 資産の総額は、59億5,401万9千円であり、歳入の2.4年分に該当します。資産総額の32.8%に該当する純資産合計19億5,241万6千円は、過去の世代が蓄積してきたものであり、十分な蓄積です。一方、負債合計で示された40億160万2千円については将来世代が負担していくこととなります。
- ◇ 但し、これまで蓄積してきた純資産は19億5,241万6千円あるものの、固定資産、貸付金、基金で57億8,595万2千円保有しており、現時点での負債合計40億160万2千円を、手許の現預金等の基金や貸付金以外の流動資産で一括で返済すると仮定すると38億3,353万6千円資金が不足している状況です。
- ◇ 資産総額59億5,401万9千円のうち施設、道路、公園等の公共資産は47億6,182万9千円で資産の80.0%を占めています。この有形固定資産の内、土地を除く償却可能資産の老朽度を示す有形固定資産減価償却率は58.5%であり減価償却が進んだことにより悪化しました。
- ◇ 地方債残高28億4,639万7千円は、公共資産47億6,182万9千円の59.8%を占め、現時点での公共資産のうち59.8%を将来世代が負担することとなります。また地方債も含めた負債合計40億160万2千円は資産の裏付けがある負債です。

2. 連結行政コスト計算書

連結 行政コスト計算書

自 令和2年4月1日
至 令和3年3月31日

(単位:千円)

科目名	金額
経常費用	2,313,534
業務費用	2,154,765
人件費	1,485,815
職員給与費	1,338,969
賞与等引当金繰入額	91,469
退職手当引当金繰入額	17
その他	55,359
物件費等	655,407
物件費	231,988
維持補修費	24,836
減価償却費	395,076
その他	3,507
その他の業務費用	13,543
支払利息	13,543
徴収不能引当金繰入額	-
その他	-
移転費用	158,769
補助金等	119,198
社会保障給付	23,360
その他	16,211
経常収益	27,112
使用料及び手数料	5,501
その他	21,611
純経常行政コスト	2,286,422
臨時損失	43,132
災害復旧事業費	-
資産除売却損	43,132
損失補償等引当金繰入額	-
その他	-
臨時利益	-
資産売却益	-
その他	-
純行政コスト	2,329,553

【 概 要 】

- ◇ 経常費用は23億1,353万4千円であり、使用料・手数料などの収入2,711万2千円を差し引いた純経常行政コストは22億8,642万2千円となります。更に臨時損益を控除した純行政コストは23億2,955万3千円です。
- ◇ 純経常行政コストを税収や補助金で賄う必要がありますが、税収等や補助金などの財源は22億30万1千円でした。コストが財源を上回り、行政コスト対税収比率も103.9%と100%を上回っています。
- ◇ 人に掛かるコストである人件費には、職員給与、議員報酬、福利厚生費などの他、将来発生する職員の退職金の支払に備えて、毎年必要な額を費用計上する引当金も含んでおり、本年度は14億8,581万5千円でした。
- ◇ 物件費のうち、減価償却費は設備を利用する際の経年劣化に伴う費用であり、維持補修費は、施設や設備が、目的とする機能を果たすための修繕に要した費用です。この施設の維持・利用に掛かるコストは本年度は4億1,991万2千円でした。
- ◇ 移転費用とは、直接サービスを行う費用ではなく、行政機関を通じて支出した費用であり、本年度は1億5,876万9千円でした。
- ◇ 臨時損益とは費用のうち臨時に発生したもの及び収益のうち臨時に発生したものをいい、資産除売却損益などが該当します。

3. 連結純資産変動計算書

連結 純資産変動計算書

自 令和2年4月1日
至 令和3年3月31日

(単位:千円)

科目名	合計	固定資産等形成分	余剰分(不足分)	他団体出資等分
前年度末純資産残高	1,785,580	5,752,932	-3,967,352	-
純行政コスト(△)	-2,329,553		-2,329,553	-
財源	2,200,301		2,200,301	-
税金等	2,161,169		2,161,169	-
国県等補助金	39,132		39,132	-
本年度差額	-129,252		-129,252	-
固定資産等の変動(内部変動)		-263,071	263,071	
有形固定資産等の増加		71,101	-71,101	
有形固定資産等の減少		-438,208	438,208	
貸付金・基金等の増加		134,769	-134,769	
貸付金・基金等の減少		-30,733	30,733	
資産評価差額	-	-	-	
無償所管換等	296,101	296,101		
他団体出資等分の増加	-	-	-	
他団体出資等分の減少	-	-	-	
比例連結割合変更に伴う差額	-13	-11	-	
その他	-	-	-	
本年度純資産変動額	166,836	33,020	133,816	-
本年度末純資産残高	1,952,416	5,785,952	-3,833,536	-

【 概 要 】

- ◇ 行政コスト計算書で計算した純行政コストが純資産変動計算書に転記され、税金や補助金などの合計額である財源でどの程度賄われているかを計算します。
- ◇ 純資産の増加である財源は、自主財源である地方税等の税金等が21億6,116万9千円あり、国や県からの補助金である依存財源は3,913万2千円です。
- ◇ 23億2,955万3千円の純行政コストに対し、財源は22億30万1千円であり、コストが財源を上回り、1億2,925万2千円純資産が減少しています。純経常行政コストと財源の割合を示す行政コスト対税金比率は103.9%と100%を上回っている水準です。
- ◇ 主に本年度の資産評価差額や無償所管替等は2億9,608万8千円でした。そのため本年度純資産差額も1億6,683万6千円となりました。この金額が前年度末純資産残高に加えられ、純資産残高は19億5,241万6千円となり、貸借対照表に転記されます。
- ◇ 本年度の純資産の増加は1億6,683万6千円ですが、固定資産、貸付金、基金は全体で3,302万円の増加です。一方、財源から行政コストを差し引いた余剰分については38億3,353万6千円減少しました。
- ◇ 本年度末時点の純資産残高は、19億5,241万6千円ありますが、現時点までで固定資産、貸付金、基金の形で資産を57億8,595万2千円保有しており、現時点の負債総額を手許の現預金等で一括で返済するとした場合、38億3,353万6千円不足します。

4. 連結資金収支計算書

連結 資金収支計算書

自 令和2年4月1日
至 令和3年3月31日

(単位:千円)

科目名	金額
【業務活動収支】	
業務支出	1,949,287
業務費用支出	1,790,519
人件費支出	1,516,645
物件費等支出	260,331
支払利息支出	13,543
その他の支出	-
移転費用支出	158,769
補助金等支出	119,198
社会保障給付支出	23,360
その他の支出	16,211
業務収入	2,198,768
税金等収入	2,161,169
国県等補助金収入	10,590
使用料及び手数料収入	5,501
その他の収入	21,507
臨時支出	-
災害復旧事業費支出	-
その他の支出	-
臨時収入	-
業務活動収支	249,480
【投資活動収支】	
投資活動支出	131,267
公共施設等整備費支出	71,101
基金積立金支出	60,166
投資及び出資金支出	-
貸付金支出	-
その他の支出	-
投資活動収入	59,275
国県等補助金収入	28,542
基金取崩収入	30,733
貸付金元金回収収入	-
資産売却収入	-
その他の収入	-
投資活動収支	-71,992
【財務活動収支】	
財務活動支出	234,613
地方債等償還支出	234,613
その他の支出	-
財務活動収入	89,700
地方債等発行収入	89,700
その他の収入	-
財務活動収支	-144,913
本年度資金収支額	32,576
前年度末資金残高	135,494
比例連結割合変更に伴う差額	-3
本年度末資金残高	168,067
前年度末歳計外現金残高	-
本年度歳計外現金増減額	-
本年度末歳計外現金残高	-
本年度末現金預金残高	168,067

【 概 要 】

- ◇ 本年度資金残高は1億6,806万7千円となり前年より3,257万6千円の増加となりました。活動別の収支の内訳は以下の通りです。
- ◇ 業務活動収支は、経常的な行政活動による資金収支で、本年度は2億4,948万円の資金が増加しています。
- ◇ 業務活動収支のうち、臨時に生じた収入・支出を除いた業務活動の収支2億4,948千円で、貸借対照表の地方債総額28億4,639万7千円を返済すると仮定した場合、11.4年で返済が可能です。
- ◇ 投資活動収支は、公共資産整備に伴う収支と金融資産の増減に伴う収支を示し、本年度は7,199万2千円の資金が減少しています。
- ◇ 財務活動収支は地方債等の発行と償還、支払いに伴う収支を示し、本年度は1億4,491万3千円の資金が増加しています。
- ◇ なお、持続可能な財政運営が可能か否かのバランスを示す指標である基礎的財政収支（プライマリーバランス）を計算すると2億2,046万4千円の資金の黒字です。

5. 連結財務書類4表構成の相互関係

連結貸借対照表(要約)						
(単位:百万円)						
科目名		金額	科目名		金額	
資産の部	有形固定資産	事業用資産	4,168	負債の部	固定負債	3,876
		インフラ資産	0		流動負債	126
		物品	594	負債合計	4,002	
	資産計	4,762	純資産の部	固定資産等形成分	5,786	
	無形固定資産	-		余剰(不足分)	▲3,834	
	投資その他の資産	0		他団体出資等分	-	
	計	0				
	流動資産	359				
	(うち、現金預金)	(168)				
	繰延資産	-	純資産合計	1,952		
資産合計	5,120	負債及び純資産合計	5,954			

連結行政コスト計算書(要約)		
(単位:百万円)		
科目名	金額	
人件費	1,486	
物件費等	655	
その他の業務費用	14	
業務費用	2,155	
移転費用	159	
経常費用	2,314	
経常収益	27	
純経常行政コスト	2,286	
臨時損失	43	
臨時利益	0	
純行政コスト	2,330	

連結資金収支計算書(要約)	
(単位:百万円)	
科目名	金額
業務活動収支	249
投資活動収支	▲72
財務活動収支	▲145
本年度資金収支額	33
前年度末資金残高	135
比例連結割合変更に伴う差額	▲0
本年度末資金残高	168
前年度末歳計外現金残高	-
本年度歳計現金増減額	0
本年度末歳計外現金残高	0
本年度末現金預金残高	168

連結純資産変動計算書(要約)	
(単位:百万円)	
科目名	金額
前年度末純資産残高	1,786
純行政コスト(Δ)	▲2,330
税収等	2,161
国県等補助金	39
財源	2,200
本年度差額	▲129
資産評価差額	-
無償所管替等	296
他団体出資等分の増減	-
比例連結割合変更に伴う差額	▲0
その他	-
本年度純資産変動額	167
本年度末純資産残高	1,952



V. 将来の資産更新額の推計

統一的な基準による財務書類の前提となる固定資産台帳より将来の資産更新必要額の推計が可能となります。

但し、本組合が現在保有している全ての有形固定資産について、

- ①資産の法定耐用年数終了時に
- ②現状と同規模、同機能のものを
- ③現在価格（取得価額等）で、更新する

事を前提としています。

この場合、必要される金額とその支出時期を推計すると、以下のグラフとなります。

将来の資産更新必要額

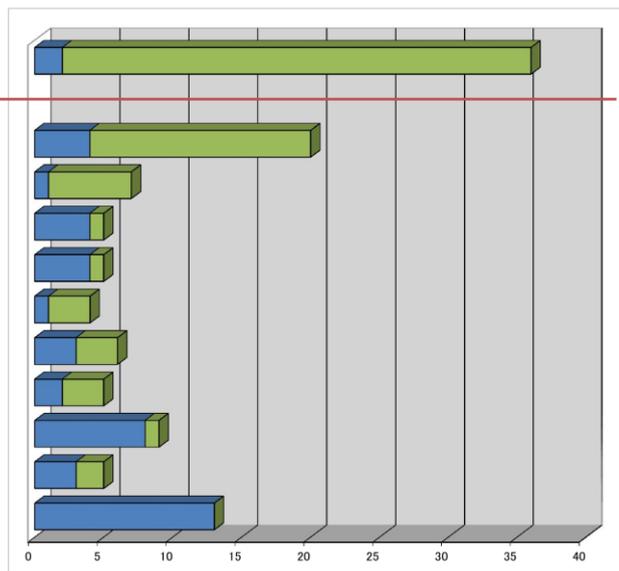
自治体名：館林地区消防組
年度：令和2年度

(単位：億円)

年度	建物	公共施設	その他	合計	年平均
～2020	2	0	34	36	

2021～2025	4	0	16	20	4
2026～2030	1	0	6	6	1
2031～2035	4	0	1	6	1
2036～2040	4	0	1	5	1
2041～2045	1	0	3	4	1
2046～2050	3	0	3	6	1
2051～2055	2	0	3	5	1
2056～2060	8	0	1	9	2
2061～2065	3	0	2	4	1
2066～2070	13	0	0	14	3

2070年までの合計	45	0	70	115	
------------	----	---	----	-----	--



この他に地方債の返済、新設費の建設費が必要です。
(全ての資産を現在価格で作り直す。耐用年数終了時に設備の更新を行う。)の二つを前提として集計しています。

この推計によれば、2070年までの50年間に115億円の更新投資が必要となり、特に2021年から2025年までの5年間に本庁舎以外の資産更新時期が集中することが想定され、これを見通した財政運営を行う必要があります。

施設の維持補修などの延命化による更新時期の平準化や、施設の用途・必要性の見直しを検討するなど、計画的な施設の管理が、今後重要な課題です。